

令和3年度 大阪市英語力調査 (GTEC) 結果の概要について

大阪市教育委員会

■ 調査内容

- (1) 実施テスト GTEC Core (ベネッセコーポレーションが提供する英語4技能型テスト)
 (2) 調査対象 大阪市立中学校第3学年生徒
 (3) 測定方法

技能	スコア	回答方法
聞くこと	210	マークシート
読むこと	210	
話すこと	210	タブレットによる音声録音方式
書くこと	210	記述式
計	840	

■ 調査結果

平均スコア	GTEC SCORE					CEFR A1 レベル相当以上の割合
	トータル	リスニング (聞くこと)	リーディング (読むこと)	スピーキング (話すこと)	ライティング (書くこと)	
大阪市平均	444.4	108.0	100.9	93.0	140.3	52.6%
全国平均	461.0	104.0	98.0	99.0	157.0	—

※ CEFR (Common European Framework of Reference for Languages: Learning, teaching, assessment)
 外国語の学習、教授、評価のためのヨーロッパ共通参照枠。A1は英検に換算すると3級程度。

※ 全国平均は、過去2年間にGTECを実施した団体の平均値

■ 結果の概要と今後の取組について

- 本調査は、令和元年度まで英語2技能(「聞くこと」「読むこと」)を測定してまいりましたが、令和3年度からは「話すこと」「書くこと」を加えた4技能で実施しました。(令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により中止)
- 4技能による本調査を実施したところ、中学3年生のCEFR A1レベル相当以上の割合は52.6%であり、国の第3期教育振興基本計画に示す目標である「中学校卒業段階でCEFRのA1レベル相当以上を達成した中学生の割合を5割以上にする」を達成するとともに、大阪市教育振興基本計画(平成29(2017)年度～令和3(2021)年度)に示す目標指標50%以上を上回りました。
- 「聞くこと」「読むこと」のスコアは全国平均を上回りました。これは、小学校からの英語教育の成果やネイティブスピーカーの有効活用による聴解力や読解力の向上が要因にあげられます。
- 一方で、「話すこと」「書くこと」においては全国平均を下回り、発信技能に課題があります。特に自分の考えや意見を「書くこと」の技能に弱みが見られます。
- 今後は、大阪市教育振興基本計画(令和4(2022)年度～令和7(2025)年度)に基づき、さらに英語4技能の総合的な育成に取り組み、令和7(2025)年度末までにCEFR A1レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合56%以上をめざしてまいります。